

情報システム開発のアイフォーム（相模原市）は小学校向けのIT（情報技術）教育事業に参入した。2020年度から小学校でプログラミング教育が必修になるのを見据え、NTTドコモなどと協力して教材を開発。相模原市立小学校で試験的な授業をこのほど始めた。将来は全国各地の授業データをインターネットで結び、相互活用できるシステムの構築も目指す。

小学校の理科向け教材

センサーで温度変化把握

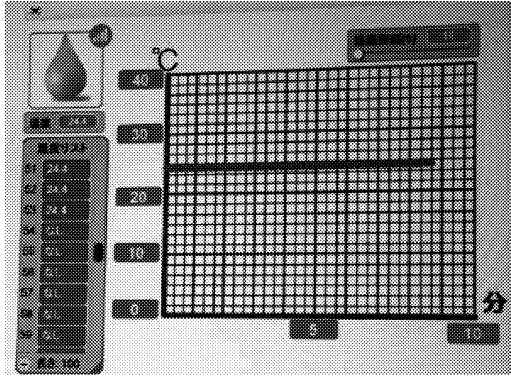
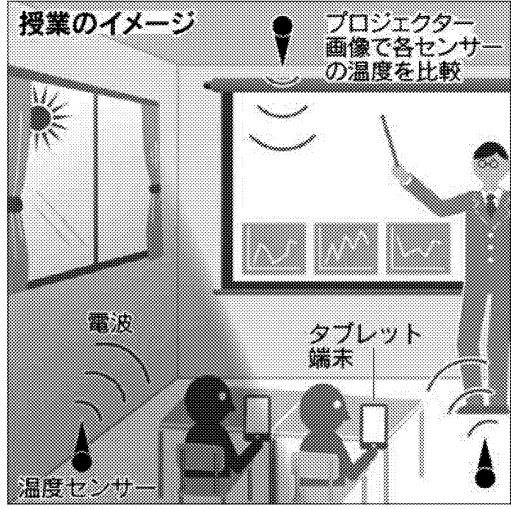
あらゆるモノがインターネットにつながる「IoT」の技術を小学4年の理科の授業で活用する。末に送信し、センサーのデータを教室の床や場所によって温度変化に

方針だ。児童にはプログラムといったITスキルの向上を目指す授業が中心にも、問題解決の手順を論理的に考える力や、様々なデータをコンピュータでどう扱ったらよいか

ら、児童にはプログラムといったITスキルの向上を目指す授業が中心にも、問題解決の手順を論理的に考える力や、様々なデータをコンピュータでどう扱ったらよいか

IoT技術授業に活用

システム開発のアイフォーム



どんな違いが生じるかを学習する。2月9日に相模原市立淵野辺小学校で初めて授業を行った。教材に使うソフトは米マサチューセッツ工科大学(MIT)メディアラボが開発した教育向けプログラミング言語「スクラッチ」を利用。ドコモやアイフォームなどが開発したシステム「リンクング」を利用し、センサーとパソコンやタブレット端末の間でデータをやり取りする。

文部科学省は20年度から小学校でプログラミング教育を必修化。児童の発達段階に応じ、理科や算数、総合的な学習など既存教科の中でプログラミング教育を取り入れる温度センサーから送信されたデータをグラフで表示